



にじいろ 虹色

秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
TEL: 018-865-1171
FAX: 018-824-1799
E-mail: sgccn002@mail12.pref.akita.jp
編集: 社会教育アドバイザー



暑かった夏休みも終わりに近づきました。1ヶ月間、学校を離れて過ごした子どもたちは、親子で地域の行事に参加したり、各公民館等で企画した活動に励んだりしたことと思います。学校ではできない貴重な経験を通じて、一回り大きく成長したのではないのでしょうか。

6月、7月も数多くの講座に参加し、公民館等社会教育の現場で活躍している方々から、お話を伺う機会がありました。現場で行事を企画することの大変さや皆さんの職務に対する熱意をそのつど感じました。とりわけ、未来を担う子どもたちを学校や家庭、地域が一緒になって育てなければならないという意気込みが伝わり、頼もしく思いました。

まだまだ暑い日が続きます。

皆様、くれぐれもお体を大切になさって有意義な夏をお過ごしください。



平成27年度

生涯学習・社会教育関係者実践講座Ⅳ

7月16日(木)に4回目の実践講座が、能代市中央公民館を会場に行われました。今回のテーマは「**地域と学校をつなぐ公民館の役割** ～防災・伝統継承・子どもの教育エトセトラ～」。能代地区を中心に28人の関係者が参加しました。当日の内容を紹介します。

1 話題提供 「地域と学校をつなぐ 公民館の役割」	・公民館に求められる役割等の確認 ・防災や伝統継承、コミュニティ・スクール等について、公民館が関わった実践例を紹介
2 情報交換 ・地域で子どもを育てることについて	<課題>・参加者が常連化・集まりが悪い・参加を促す手立てがわからない <成果>・チラシは学校から配付・公民館関係者がコーディネーターとなると連携がスムーズ・公民館側から地域に入る・活動を平日に実施 ※異なる地域ごとのグループ協議 ※ピンク(課題)とブルー(成果)の短冊を使い分けて発表 ※学校と公民館がもっと知り合うことが必要ではないかという助言
3 グループワーク ・「学校と地域をつなぐ」公民館や生涯学習・社会教育関係者の役割を考えよう	・公民館を知らない子どもたちがいる中、PRが必要である。 ・社会教育施設見学に公民館も必ず入れる。グッズをプレゼントする。 ・お互いを知るシステム作りが必要である。 ・楽しい公民館にする。 ※同じ地域ごとのグループで協議 ※模造紙や4つ切り画用紙を使って考えをまとめて発表

予定の時間が過ぎても話し合いを続けるほど、熱くなって語り合いました。各グループの発表内容の中には、課題について解決のヒントとなることが多く含まれており大変有意義な研修会でした。

実践講座はこの後3回計画しています。
みなさんの参加をお待ちしております。



☆各グループでは地域の実態を紹介し合いました。

行動人

《学んだことを生かして行動する人》

秋田には、学んだことを生かした行動で、地域や周囲の人々を元気にしている人たちが大勢います。



☆笑顔で話す高橋さんです。

高橋朋子さんは、秋田市雄和に住み、和紙づくりに励んでいます。たまたま見た和紙の魅力にひかれ、茨城県在住の菊池正気氏から2年間指導を受けました。

全国的に和紙を漉く人が減少していることや、県内に“十文字和紙”等はあるものの県内独自の和紙が少ないことを危惧して、故郷の秋田に工房を構えました。平成19年からは、紙漉きには欠かせない豊かな水源がある雄和に工房を開いています。そして、工房の名前を出羽の国にちなんで、“出羽(いでは)和紙”と名付けました。

高橋さんは、「和紙の魅力は、独特の温かさをもった手触りや素朴さ、そして同じ和紙は二枚とできないところにあります。その

魅力を多くの人に感じ取ってほしい。」と話していました。

その高橋さんの気持ちは、葉書やコースター、便箋セット、ランチョンマットさらには、ペーパーウェイトやランプシェードという“生活の中で使える作品”づくりにもあらわれています。

「今は子育てに時間をとられ、思うように作品づくりはできませんが、将来的には、手作り体験教室等を通してみなさんに和紙の魅力を伝えていきたい。」と熱意を込めて話していました。



☆センターの入り口ホールで展示会が開催されました。



あきたスマートカレッジ

＜あいLOVEあきた まるごと湯沢ジオパーク＞ 7月25日(土)

ふるさとの魅力を探る講座はこの日で6回目。湯沢市役所を出発して、・小安峡大噴湯・川原毛地獄・三途川溪谷を散策しました。

出発に先立ち、湯沢翔北高校商業クラブのみなさんが「湯沢の地熱について」というテーマでプレゼンテーションを行いました。地熱の利用は地域活性化のために欠かせないこと、特に三関のさくらんぼを地熱を利用して乾燥させた“ミッチェリー”についての説明は、学んだ知識や技術を地域のために生かそうという思いにあふれていました。

参加された15名のみなさんは、小安峡大噴湯での約900段もの階段を疲れも見せずに登り切り自然を満喫していました。また、同行したジオパークガイドさんの説明にも熱心に耳を傾け、質問する様子に地域学習に対する意欲を感じました。



トピックス



【 きらり特別支援学校 職場体験学習 】

7月2日(木)に、キャリア教育の一環としてきらり特別支援学校高等部の1、2年生5名の訪問がありました。先輩である当センターの職員の仕事を見学し、自分の進路について考えることがねらいです。

説明する若い職員も生徒さんたちも真剣そのものでした。「今の仕事について2年目。センターでの毎日は思っていた以上に大変でした。皆さんも困ったことがあった時、どうすればうまく対応できるかを考える習慣を身に付けてほしいと思います。」という先輩の言葉に大きく頷いていました。

・自分を見つめ直すきっかけをもらった。

・挑戦する気持ちやコミュニケーション力の大切さがわかった。

等の感想から、有意義な研修であり、得たものも大きかったことが感じられました。



☆先輩の話に熱心に耳を傾けていました。